

令和2年10月30日  
高齢福祉部高齢福祉課

第8期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案  
シンポジウム及びパブリックコメントの実施結果（速報）

§1 シンポジウムの実施結果

1 実施日時及び会場

実施日時 令和2年9月25日（金）18時30分～20時30分  
会場 世田谷区福祉人材育成・研修センター 研修室C

2 参加者  
約40人

3 内容

- (1) 第8期世田谷区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画素案の説明  
高齢福祉部高齢福祉課長
- (2) 基調講演「介護保険制度とこれからの世田谷区に求められるもの」  
中村 秀一（世田谷区地域保健福祉審議会会長）
- (3) パネルディスカッション
  - ・発表①「砧あんしんすこやかセンターの取り組み」  
山本 恵理（砧あんしんすこやかセンター管理者）
  - ・発表②「重度化防止の取り組み」  
佐藤 庸平（成城リハケア所長）
  - ・パネルディスカッション テーマ「地域で元気で安心して暮らし続けるために」  
【コーディネーター】中村秀一  
【パネリスト】山本恵理、佐藤庸平

4 主な意見

- (1) 第8期高齢・介護計画素案について
  - ・重点対策の提起は良い発想だ。
  - ・介護人材対策をどうしていくかは悩ましい課題だ。介護の魅力を発信することに力を注いでほしいです。やれることをやっていこう。
- (2) 基調講演について
  - ・国全体と比較して、区の状況が分かった。
  - ・「健康寿命を延ばす」という取組みは個人の価値観が大変影響される部分であり、なかなか難しいと感じた。ただし、元気な高齢者が大変増えていることは感じている。

### (3) パネルディスカッションについて

- ・地域での活動が重要になってくることや、当事者に対する傾聴や自立支援が効果があると感じた。
- ・介護職がまだ十分に理解されていないことは、影響が大きいと感じた。
- ・8050 問題を抱える家族の想いに気付くあんしんすこやかセンターはすばらしいと思った。
- ・介護・福祉・医療の連携は十分できているが、地域住民や社会資源とつながること、連携はまだまだ乏しいと思う。
- ・人と人との関係が希薄になっている中、人との濃厚に関わる（人生に関わる）福祉・介護の仕事に魅力を感じてもらうのが難しい。自分が携わるのは嫌だが、誰かが担ってくれるなら助かる、というような他人事の考え方が多いうちは難しいかと思う。区民一人ひとりが地域や社会のあり方を自分事として考えられる世の中になっていくと良いと思う。

## § 2 パブリックコメントの実施結果（速報）

### 1 意見募集期間

令和2年9月18日（金）から10月9日（金）まで

### 2 意見提出人数

意見提出者数 131人

（はがき118人、電子メール9人、封書1人、Fax2人、持参1人）

### 3 主な意見

別紙のとおり

主な意見
<p>■ 計画の基本的な考え方について</p>
<p>計画素案のとおりでよい。外出時、若い人も気にかけて声をかけてくれる。</p>
<p>高齢者対策も大切だが、少子化対策にも力を入れてほしい。</p>
<p>区は幼児などの問題だけでなく、高齢者福祉にも力を入れてほしい。</p>
<p>医療や福祉の財政が厳しくなってくるので、75歳からを高齢者、85歳からを後期高齢者としてはどうか。</p>
<p>住み慣れた地域で支えあい自分らしく安心して暮らし続けるためには、高齢者、障害者、障害児の計画を別々に検討していたのでは解決策は出てこない。2025年に向けて、横串をさして検討していくべきだ。</p>
<p>安心して暮らし続けられる基本理念を、施策で具体化してほしい。</p>
<p>福祉以外の予算も総合的に考え、行政の縦割りを解消して行く必要がある。福祉・介護人材不足の原因は待遇にあり、改善するとともに、適材適所が発揮できる優遇が第一ではないか。また、自助・共助・公助の順は、不十分な検討の段階で打ち出すものではない。</p>
<p>20～30年後を見据え、科学技術の進歩、高齢化、財政ひっ迫の現状から現状維持は不可能であると予想されているので、以下のとおり全面的に計画を作り直すべきだ。高齢者保健福祉事業の要は、第一に持続可能性、第二に革新性だ。介護保険は、遠からず逼迫するので、持続可能な高齢者生活システムを構築することが最も有効だ。一方、区でも新型コロナウイルス感染症発生後の新しい生活に対応し、21世紀中葉には、AI、ロボットが人間を凌駕する可能性を見据え、IT、ロボット、AI等により福祉・医療・介護の統合的なシステム実現により、高齢者を含んだ区民に対応した社会実現を目指し、その理念・企画・一部施策の実現を目指す。新しい社会システムは、高齢者のみだけでなく、異なる世代と共同、協調した社会を実現する。また、日本で開発した新しいシステムを日本国内のみならず、世界に広めることにより、高齢者の事業を構築し、収益を福祉・保健事業に投入し、高齢者事業の持続性を確保する。3年間、その事業の推進のため、一部の施策、世代を超えた世界を先導するITコミュニケーションネットワーク企画・構築を開始する。その中で、区民の福祉、医療、健康の増進を図る。</p>
<p>■ 健康づくり</p>
<p>人生100年時代といっても健康寿命が大切。高齢者になっても働き、スポーツもやっている。</p>
<p>平均寿命と健康寿命にはかなり差があると思う。高齢者の健康法をわかりやすく発信してほしい。</p>
<p>「健康寿命」は60歳まで健康であると仮定しているが、生まれた時から病気や障害を抱えている人もいるし、後に受傷する人もいる。「健康寿命」は、要支援・要介護認定を受けた人たちを傷つける表現だ。</p>
<p>地域に暮らす高齢者や障害者などの多様性を認めあうことのできるスポーツプログラムを開発し、年齢・障害の有無などを超え地域交流を図れると良い。</p>
<p>健康寿命の延伸には、歩くことがよいが、ただ歩くだけでは継続できないので、自然の中でボールを追いかけてスコアを計算しながら頭脳を使って歩くゴルフが全身の健康に良いと思う。ゴルフ費用の助成を希望する。</p>

主な意見
<p><b>■ 地域活動・地域参加</b></p>
<p>高齢者の中には精神・体力ともまだ元気な人もおり、常に「助けてもらう側」では居心地良くないのではないかと。高齢だからこそできる社会貢献のプラットフォームがあると世代横断型の交流が促進させられるのではないかと。私は30歳代だが、育児経験や昔の話、知恵などを聞きたい。</p>
<p>高齢者施策は、行政の対応だけでは不足であり、高齢者が地域で集える場の取組みが効果がある。</p>
<p>高齢者サークルなど、居場所があることにより健康寿命が延び、介護・福祉にかかる人員と予算を減らせるのではないかと。</p>
<p>高齢者でも60歳と80歳では大きく異なる。元気な後期高齢者向けの交流や学びの場を作ってほしい。</p>
<p>65～80歳までは地域貢献し、80歳以上は余生を楽しむ。区はこれに対応した地域内での相互支援のしくみを作る。高齢者でも支援できる活動へ結びつけるしくみづくりにより介護費用も削減される。</p>
<p>高齢者の活動と参加を促進するために、区民センターや学校の空いているスペースを活用し、お話ししながら内職し、区内で使えるクーポンを出すなどしてはどうか。</p>
<p>小学生と高齢者が交流できる場があると良い。例えば、学校図書室を高齢者が訪れることができるようにし、子どもと語りあう場を作る。子どもにとっても、多様な人と触れ合うことにより、共生社会を担う教育の場となる。</p>
<p>2022年、市街地の緑地が大きく減少する恐れがある。農業の継続も売却や転用の意思もない農地について、生産緑地として再指定し、区民農園として高齢者の生きがい・就労・交流の場にできないか。リタイアした農家の指導を受けつつ、農作物を自給することは生計の足しになると考える。</p>
<p>「生涯現役」は表現が曖昧で、死ぬまで現役を求めることになりかねないため、削除することを求める。</p>
<p><b>■ 高齢者の集う場づくり</b></p>
<p>高齢者が無料で集える場所を増やして欲しい。</p>
<p>高齢者を対象とした区民利用施設を充実させてほしい。</p>
<p>老人休養ホーム「ふじみ荘」を存続してほしい。相当費用が掛かっていると思うが多くの利用者が時間を過ごすことは社会負担の軽減になっていると思う。</p>
<p>ふじみ荘の次の施設ができるまで廃止せず、収入を得る工夫をして継続してほしい。</p>
<p>ふじみ荘を廃止しないでほしい。(同意見他17件)</p>
<p><b>■ 就労</b></p>
<p>高齢者の求人内容はこれまでの経験を生かすものと合っていない。60～70歳の人だけの会社をつくり、週3日前後で仕事をシェアし、今までの経験などを生かした「何でも屋」を区関連企業として設立できないか。</p>
<p>介護離職した人が復職できるよう週3～4日勤務や在宅勤務などの形態やキャリアに合った就労への橋渡しをしてほしい。</p>

主な意見
<b>■ 在宅生活の相談・支援</b>
人とのつながりを勧める講座だけでなく「ひとりでの老後」を考える講座などを開いてほしい。コロナの時代を生きる方法としても、一人でどうやって老後を送るか、ひとり暮らしを楽しむ方法を学ぶ講座を期待する。
あんしんすこやかセンターの相談体制の充実や、区民からの苦情対応の充実を入れることを求める。
補聴器について相談できる、第三者としての窓口が欲しい。
ちょっとした家事の手助けをしてくれる人がいると良い。
重い荷物の買物が不自由なので、80歳以上にはスーパーマーケットなどで買物した物を無料で配達してくれるよう交渉してほしい。
紙おむつの支給は要介護4ではなく3から対象にしてほしい。
<b>■ 見守り</b>
ひとり暮らし高齢者が孤立死しない施策の工夫をしてほしい。
住宅のライフラインや防犯など、高齢者の一人暮らしであるがための不安・心配なことが多い。区が年に一度でもひとり暮らし高齢者の家を点検したり、相談にのったりしてほしい。
ひとり暮らし高齢者の異変に気が付いた住民がすぐに連絡できるよう、回覧板に民生委員の連絡先を記載しておいたり、あんしんすこやかセンターへの連絡を徹底する等、地域住民の見守り意識を向上させる取組みが必要だと思う。
<b>■ 認知症</b>
認知症の家族の介護はいつ終わるか分からず、神経も使う。本人に寄り添う介護のためには家族が健康であることが大切だ。家族会には仕事などでなかなか参加できない。どのような様子・内容なのか、教えてほしい。
軽度認知症のための施策を充実させてほしい。
<b>■ 成年後見制度</b>
成年後見制度利用促進計画を内包したことで権利擁護支援と一体的な計画になっていることは評価できるが、ノーマライゼーションプランの成年後見制度利用促進計画との整合性に欠ける部分がある。
成年後見制度は判断力が衰えた人を支援する制度であり、高齢者とは限らない。むしろ認知症対策として活用すべきではないか。
成年後見制度利用促進基本計画に盛り込むべき事項に「チームや協議会等といった地域連携ネットワークの基本的仕組みを具体化」がある。見守りなどにおいて、区には既に民生委員やボランティアで「チーム」に参加している実績がある。見守り活動と「チーム」の関係を明記することで、区民の役割が明確になり、主体的に参加し、制度の普及と地域づくりにつながるのではないか。
国の成年後見制度利用促進基本計画には、地域連携ネットワークにおけるチーム及び専門職団体による支援体制などの整備には、地域ケア会議や地域活動を行う各種機関・協議会等、既存の仕組みを活用しつつ、有機的な連携を図りつつ進めるように、とある。地域ケア会議、第2層協議体等の仕組みをどのように位置づけていくのか。
成年後見制度において、区長申立までの手続きが多く、区職員の負担になっていると感じた。区民成年後見人との役割分担を見直してはどうか。また、相談会では捉えきれない高齢者・障害者をどう把握していくのか。
成年後見制度の利用が進まない実態を把握し、課題整理、国への提言を求める。

主な意見
<p><b>■ 在宅介護・医療</b></p>
<p>個人のカルテやその他の情報、医療機関、ケア機関、区役所等をITネットワーク・クラウドでつなぎ、一人ひとりの生活を改善するための仕組みを構築すべきだ。</p>
<p>在宅介護をしてくれる診療所が増えると安心できる。</p>
<p>在宅介護は心身ともに負担が大きく、働きながら介護を続けることが困難になり、仕事を辞める人も多い。高齢者福祉を充実させるだけでなく、高齢の親を支える家族のケアも考えてほしい。</p>
<p>高齢化の諸課題の解決には、リビングウィルに基づく尊厳死の法整備が必要だ。</p>
<p>延命は望まないのに、安楽死の法整備を望む。</p>
<p><b>■ 住まい</b></p>
<p>少ない年金でも住み続けられる住宅を区内に確保してほしい。</p>
<p>年金だけでは家賃を払いきれず、公営住宅に何度も申し込んだが当選しない。真に必要としている高齢者を優先的に入居できるようにしてほしい。</p>
<p>住居費を減らせれば、食生活が充実し健康になり、介護保険の利用も減るので、区営住宅に低い使用料で住めるようにしてほしい。</p>
<p>動物と一緒に入居できる住まいを整備してはどうか。空家を活用して、高齢者だけでなく障害者、子ども、動物と一緒に住むことができる住まいを整備することで抜本的な課題が解決できるのではないか。</p>
<p><b>■ 介護施設</b></p>
<p>特養ホームの整備計画の根拠を見直し、必要な人が入所できる増床計画を策定してほしい。</p>
<p>各地区に小規模特養ホーム・認知症グループホーム・小規模多機能居宅介護サービスを整備してほしい。</p>
<p>遺族年金程度で入居できる特別養護老人ホームを増やしてほしい。</p>
<p>年金で入居できるようなケアハウスを整備してほしい。</p>
<p>医療ニーズの高い要介護者が特養ホームに入所できるよう施設に支援策を講じてほしい。</p>
<p>普段、デイサービスに通うことで重度化を防止しているが、特養のショートステイ利用時はデイサービスが利用できない。介護保険のデイサービスを利用しながらでも、適正な費用で安心して一時的に預けられる施設があると良い。</p>
<p>低所得者であっても介護保険施設・居住系サービスを利用できるよう、実態調査をするとともに、経済的な対策を検討してほしい。区で財源の確保ができない場合は、都・国に対策を提案することを求める。</p>
<p>安心して介護施設に面会に行かれるよう、早く無料のPCR検査ができるようにしてほしい。</p>
<p><b>■ 福祉・介護人材</b></p>
<p>在宅サービスを担う介護人材確保のため、給与保障に区として積極的にかかわるとともに、介護職の資質向上、特に医療に精通するケアマネジャーの確保と研修などに力を入れてほしい。</p>
<p>介護人材の確保及び育成・定着支援では、不安定なパートタイマー労働の解消と、特に若い世代が就労できる環境の整備を求める。</p>
<p>介護人材確保策として、介護職員に月額賃金1万円助成してほしい。</p>
<p>かかりつけの病院に入院を断られた経験がある。高齢者が増える中、在宅医療の重要性がますます高まる。在宅医療従事者の増員を要望する。</p>
<p>IT、AI、ロボット等の先進技術を統合し、異なる世代との共同した新しい社会空間・居住空間実現のため、試験的・実験的に各地域にプロジェクトを作り、福祉介護の業務の高度化、専門化を進めるべきだ。</p>

主な意見
<p><b>■ 介護保険制度</b></p>
<p>自宅で仕事をしている家族がいても、介護サービスを受けられるようにしてほしい。</p>
<p>介護の仕事やボランティアをしている人が、介護を受ける側になった時、優遇される制度があると良い。介護する人・される人の双方に役立つと考える。</p>
<p>65歳過ぎて元気なうちに区の事業で奉仕し、その活動を貯蓄。介護が必要になった時は、その分、遠慮なく支援してほしいと言える制度を皆で考えることにより、明るい社会になるのではないかと。</p>
<p>介護予防・日常生活支援総合事業の対象者を要介護認定者に拡大しないでほしい。</p>
<p>区民の自発的な活動は、区の計画で規定されるものではなく、生活支援は本来、介護保険給付で行われるべきだ。総合事業や介護給付の訪問介護の利用実態を調査し、対応を検討することを求める。国に対しても区からの発信を求める。</p>
<p>介護保険制度の円滑な運営では、介護ロボットの試験的活用、ロボット介護施設を実験的に作りながら、IT、AI、ロボット等を駆使した介護システム、健康・医療・介護・保険の仕組みを実現すべきだ。科学技術の徹底的活用により、持続可能性、公正性を確保するだけでなく、財政面からの将来性を含めて検証すべきだ。高齢者も参加し、あらゆる人間との親和性、財政課題の克服、個々の尊厳に考慮して、新しい科学技術を駆使してシステムを構築すべきだ。</p>
<p><b>■ 介護保険料及び利用者負担</b></p>
<p>年金受給開始により介護保険料が差し引かれることを周知するとともに、保険料はもっと下げてほしい。</p>
<p>65歳以上の介護保険料段階では、高収入層の保険料をもっと高くし、中間層の負担を減らすなど、所得に応じた応能負担にしてほしい。(類似意見 他2件)</p>
<p>介護保険料が高い。介護保険サービスを一定期間利用しない時は、保険料を免除・減額してほしい。健康を維持し、サービスは使っていないが、スポーツクラブの会費や道具の購入に費用がかかっていることを考慮し、少しでも負担を軽減してほしい。(類似意見 他2件)</p>
<p>在宅生活は出費が多い。保険は掛けた人に還元されるべきであり、介護保険からの現金給付が必要だ。</p>
<p>自己負担割合が2割になり、請求額に驚いた。介護保険に関して相談できる窓口を分かりやすくしてほしい。</p>
<p>生計困難者等に対する利用者負担軽減制度(さくら証)の対象を拡大してほしい。</p>
<p>介護保険の貸与の浴室椅子の金額が高すぎる。国が定価を管理してほしい。</p>
<p>認知症グループホームは自己負担が高く、低所得者は利用できない。特養ホーム並みに引き下げる施策を実施してほしい。</p>
<p>小規模多機能型居宅介護の宿泊費が高く、低所得者には利用しづらい。特養ホームのショートステイ並みの負担となるよう施策を実施してほしい。</p>
<p><b>■ 経済的な課題</b></p>
<p>通院のために病院の近くに住まざるを得ない。年金は家賃に消え、切り詰めても赤字である。年金を増やせないか。</p>
<p>後期高齢者医療費の本人窓口負担を無くしてほしい。</p>
<p>通院のための介護タクシーの費用が多くかかっている。タクシー代助成額を増やしてほしい。</p>
<p>区独自に世田谷線のシルバーパスを創設してほしい。</p>
<p><b>■ 介護保険サービス事業者</b></p>
<p>セクシャルハラスメントがあるなど、労務管理がきちんできていない介護事業所もある。どのように対応していくのか。</p>
<p>介護保険の住宅改修や福祉用具貸与について、ケアマネジャーの不適切な扱いがあった。</p>

主な意見
<p>■ ICTの推進</p>
<p>計画の推進体制では、高齢者を含め、人間とIT、AI等が協働するシステムを構築しようとする意識を持ち、公正性・透明性を確保し、区、区民、その他関係者により推進体制を構築すべきだ。システムには、それに寄与する電子機器類を含み、新しい生活様式を実現すべきだ。また、計画の進捗は広く公開すべきであり、資料編にある関係情報はデータベース化し、システム構築等に利用できるようにすべきだ。</p>
<p>区業務の徹底したIT化を目指し、併せて高齢者を含むIT化ネットワーク、健康、介護、医療部門のIT化ネットワーク、さらには関連パブリック部門のIT化を計画し、小規模パイロットモデルを開発すべきだ。</p>
<p>高齢者の交流・ネットワークづくりなどには、区主催のパソコンやスマートフォン教室などが有効だが、Wi-Fiが無い区施設が多い。Wi-Fiを整備すべきだ。</p>
<p>オンラインの活用以前に、高齢者のみの世帯はインターネット環境が整っていないことが多い。区がインターネット環境の整備を支援したり、タブレットを貸出してはどうか。</p>
<p>■ 情報提供の方法</p>
<p>情報は高齢者にわかりやすい言葉で、インターネット環境に頼らず発信してほしい。</p>
<p>メールマガジンやtwitter等の情報提供にはついていけない。</p>
<p>■ 都市整備</p>
<p>健康づくりのために散歩をしているが、疲れた時に座れるようベンチを設置してほしい。 (類似意見 他4件)</p>
<p>転ばないように注意されるが、歩道の凹凸・つぎはぎ・高低差など、歩道が危険な状況だ。 (類似意見 他3件)</p>
<p>■ 交通</p>
<p>後期高齢者となり、通院が大変になってきた。ダイヤモンドバスの停留所を増やしてほしい。</p>
<p>給田2丁目は交通不便なので、千歳烏山駅までの巡回ミニバスを導入してほしい。</p>